

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300331		
法人名	株式会社 センチュリークリエイティブ		
事業所名	グループホームあみーご奈垣せせらぎ		
所在地	三重県名張市奈垣1422-5		
自己評価作成日	平成 30年 10月 26日	評価結果市町提出日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kihon=true&JivovosvoCd=2471300331-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30年 11月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地や環境を生かし、畑の野菜や草花の成長を感じながら日々過ごしていただけるよう、各利用者の状態に合わせた援助を心がけている。
 理念にも掲げている「共感」「尊重」を常に意識しながら、できることを見守り、できない部分を補う介助をしている。また「地域とのつながり」では、近隣住民の皆様にも施設の存在を気にかけていただき、情報交換している。
 同市内にある2施設と連携し、合同での行事等で利用者・職員共に交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺を山に囲まれた静かな環境で、利用者は日々の散歩や外気浴で季節を感じながら暮らしている。管理者・職員は利用者ができること、したいことをしてもらい、できない場合は援助している。利用者と一緒に関わりながら利用者がのんびり生活できるような支援に努めている。法人役員や管理者は、定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。全職員が、身体拘束・接遇・虐待などの研修に参加し、禁止の対象となる行為について正しく理解し、利用者の人格を尊重した支援に取り組んでいる。事業所は地域との交流を大切に、利用者と神社のお祭りに参加したり、園芸ボランティアや音楽リハビリの受け入れなど積極的に交流を行っている。理念「共感、尊重、地域とのつながり」の下、利用者の笑顔を大切に、安心してゆったり過ごせる支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員で意見を出し合い、見直した理念を来所した人に見ていただける位置に掲示している。定期的な会議や勉強会の際にも職員間で再確認し合い、新規で入職した職員にはまず理念から説明している。	全職員で意見を出し合い、見直した理念「共感、尊重、地域とのつながり」を玄関の見やすい位置に掲示している。理念にそって、利用者がその人らしく安心して暮らせるような支援に努めている。職員会議や日々の支援で再確認しながら理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、管理者が例会に参加している。地域の神社のお祭り等には、利用者も参加している。施設開催の運営推進会議にも自治会長や民生委員が参加されている。	管理者が自治会の定例会に出席したり、利用者が神社のお祭りに参加するなど地域とつながりながら生活している。定期的に、園芸・音楽・手品などの地域ボランティアが訪問している。近所に民家が少なく交流は難しいが、併設グループホームとの交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、地域からの参加者に認知症利用者の現状や介護の課題を報告したり、ケアマネ研修での事例検討等により、情報を発信・収集している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況の報告と共に、事故の内容や課題を詳しく報告し、家族や行政の意見をお聞きしている。その結果を会議等で共有したり、改善策につなげている。	併設グループホームと合同で2ヶ月に1回開催し、家族代表、市・地域包括支援センター職員、区長、民生委員が出席している。事業所の現状や取り組みを報告し意見交換を行っている。出席者から出された意見や提案を会議などで共有し、改善策を検討しながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議で出された意見を活かすために、取り組みや結果記録を作成して運営推進会議で報告したり、また事業所内に掲示することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	後見人の利用や施設の空き状況等を地域包括支援センターや生活保護担当者に相談している。また、定期的に介護相談員の訪問を受け入れているが、その際は利用者の心理状態や体調を事前に報告したり、面談後の結果を確認している。	日頃から市町と連絡を密に取り実情や空き状況を報告している。担当者(ケアマネジャー)が市役所に出向き更新手続きや事故報告書の提出、相談、生活保護受給者の対応など関係機関と連携し協力関係を築いている。2カ月毎に介護相談員が訪問し情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員会議や毎朝の申し送り時等にも拘束を指摘される可能性があるような介助方法や声かけについて、点検し合っている。施設の玄関は夜間や入浴時等に限り施錠している。	身体拘束廃止委員会を設置し、2カ月に1回委員会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員会議や毎朝の申し送り時に不適切な介助や声掛けについて話し合っており、今年、外部講師を招き接遇マナー研修を開催した。職員の少ない時間帯に限り玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は外部講師を招き、接遇マナー(言葉づかい)や苦痛の少ない介助方法を学んだ。日誌にも虐待についての資料をセットし、いつでも見られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用する利用者がおられ、定期的に訪問、報告等連携している。利用が必要な利用者については、関係者と調整中である。制度についての研修にも参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得して施設を利用して頂けるよう、契約書その他の書面について、利用者家族に時間をかけて説明している。制度改定に伴う変更事項についても文書で同意を得た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、施設内外の苦情相談窓口を明記している。家族や後見人からの意見や要望については、日誌に記載欄があり、ケアや対応の変更につなげている。	面会時や電話の会話から家族などの意見や要望を聞いて、日誌に記録し職員間で共有し支援につなげている。母体法人がアンケートを実施したり、毎月「あみーご通信」を発行し家族に送信するなど、家族などが意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・社員会議・面談で職員からの提案や意見を聞き取り、会社役員との定期的な会議の場で管理者が報告する。必要に応じて役員や担当者が直接職員と面談する。	毎月の職員会議や社員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、法人役員との定期的な会議で管理者が報告している。また必要に応じて役員と職員との個人面談も行われている。職員の提案で各居室に停電用非常ライトを設置したり、日常業務の改善が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な会社役員・管理者との面談や、自己評価等により、誇りを持って仕事に取り組めるような環境づくり、サポート体制を継続している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や経験に応じて、本人と相談しながら指導期間を決定し、研修を受けた内容を記録してもらい、習熟度を確認している。資格取得のサポートや、施設内外の研修への参加も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治体等が主催する会議・研修への参加や、他施設の見学、ケアマネ研修等への参加により、情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接による本人・家族からの聞き取りと共に、在宅の担当ケアマネや、利用中のサービス事業所からも情報収集し、スムーズに移行してもらえるよう連携している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や入居申込時に、家族の思いや要望などを丁寧に聞き取り、記録している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや利用中のサービス事業所と連携し、情報収集している。状態によってはより本人に合うサービスを検討し、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができること、したいことを日頃の会話から引き出し、記録して共有している。できる家事をお願いし、やりにくい部分を援助するという姿勢で、かかわっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への思いが強い利用者については、面会や電話での会話を依頼する。誕生会や受診に同席をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのつながりを継続しておられる方は少なくなりましたが、希望に合わせて外出の調整や、友人が訪問された際にはゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。友人にも行事の案内をし、参加をお願いしている。	お墓参りや家族のお見舞い、かかりつけ医の受診など一人ひとりの希望にそって外出できるように支援している。友人がお弁当持参で訪問された時には、一緒に昼食を食べながらゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは、個々の性格や相性に配慮しながら過ごしてもらう場所を考え、職員が間に入って会話やレクリエーションを楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動されたり、入院された利用者の状況確認や家族からの相談に応じ、必要があれば施設や病院と連携している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を確認しにくい利用者については、家族からの聞き取りと共に、日頃の会話や言動、表情等から気づいたことを記録し、本人の思いを引き出せるよう努めている。	利用者ごとに担当制になっており、日常の何気ない会話や様子から思いや希望を把握している。気づいたことを引継ぎシートに記入し、職員間で情報を共有しながら支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接、入居以降も利用者・家族から情報収集し、わかったことは、日誌に記録して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより、各利用者の現在の健康状態、ADL、生活リズム等の把握に努め、定期的に見直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、見直し時のカンファレンス等で各職種と話し合い、可能であれば利用者・家族にも参加して頂いて意向を確認し、介護計画書を作成している。	毎月モニタリングを行い、半年毎及び利用者の状態変化で、随時介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議においてカンファレンスを実施し、担当職員・看護師等が意見を出し合い、家族の意向を反映させた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌(引継ぎシート)や個別記録用紙に、利用者の様子を記録し、特に日頃と違う状態があれば看護師やリーダーに口頭で報告し、結果確認するよう徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別レクリエーション、買い物や外出、散歩等利用者の希望に応じて援助したり、家族との外出を調整・援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸ボランティア、音楽リハビリ、訪問美容等の受け入れ、地域のお祭り等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療制度を導入し、殆どの利用者が利用中。病状によりこれまでの医療機関を継続していた利用者も、病院側の都合で訪問診療に移行することとなった。皮膚科・整形受診等が必要な場合は通院の付添いをしている。	ほとんどの利用者が協力医がかかりつけ医になっている。月1回の訪問診療、夜間・緊急時対応など適切な協力体制が取られている。皮膚科、整形外科、精神科など専門医受診は、基本的に家族同行であるが、利用者・家族の状況や希望で職員が同行支援や代行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤と非常勤の看護師を配置し、夜間帯でも電話で状態報告ができるようシステムを確立している。受診が必要と判断した場合は、家族にも連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に対して情報提供し、退院の見込みや退院後の対応について、病院側との連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応の指針を説明し、終末期に対する希望を、できる限り確認している。入院や他施設への移動が必要と判断される場合は、家族への相談とともに、利用可能なサービスについて、情報収集し、提案している。	入居時に「重度化対応・終末期ケア指針」を説明し、終末期対応の希望を出来る限り確認している。事業所の方針として現在看取りは行っておらず、重度化した場合は家族と十分に話し合い、他施設・病院等を紹介したり、必要に応じ他のサービスを提案している。関連機関と連携を図り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習や訓練を受ける機会を設けており、継続している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実践式消防訓練で、消防署からの指導を受けている。災害時には施設が孤立する可能性が高いため、近隣住民との協力関係や備蓄品の整備に努めている。	年2回、併設グループホームと合同で消防訓練を実施している。消防署の指導で、通報・初期消火・避難訓練を行っている。近隣住民と協力関係を築き、台風発生時には安否確認の連絡がある。居室には停電用非常ライトを設置しており、非常食は6日間分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である「尊重」を常に忘れずに、否定しない言葉かけを指導し、職員間でチェック合っている。また、職員会議等でも点検している。今年は接遇マナーについての研修も実施した。	事業所の理念「尊重」を忘れずに、排泄や入浴時には否定しない声掛けや対応を心掛けている。不適切な言動に気づいたら、その都度、職員同士で注意し合い、職員会議などで確認しながら、誇りや自尊心を損ねない支援に努めている。面会カードや個人情報に関する書類の管理・保管に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや食事等、利用者の意向を確認しながら援助している。意向を確認しにくい利用者に対しては、表情や仕草を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、利用者の好みや体調に合わせて各自のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を適切に選べる利用者が少なくなっているが、できるだけ自己決定できるよう、声かけを工夫している。肌の手入れや化粧をする利用者には手順を声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、食事前にお知らせしている。食事準備や盛付、片づけ等、職員と共に行っている。行事の時は利用者の希望を聞きながら、季節に合わせた献立の工夫もしている。	給食センターの調理済み食材を事業所で加熱して配膳しており、朝・昼・晩、ご飯・みそ汁は手作りしている。利用者が準備・下膳・食器洗いなど出来ることを手伝っている。誕生日・季節の行事食・月1回のおやつ作りなど、利用者の希望や好みを聞き、お弁当を購入したり、職員と一緒に手作りして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや摂取状況を記録し、硬い物は小さめにカットするなど、食べやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けにより、歯みがきやうがいを援助している。義歯洗浄や管理等、一人ではできない部分は職員が介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の間隔やパターンを知るため記録をとり、早めのトイレ案内で失禁を防止したり、夜間はおむつ交換の利用者にも日中はトイレに行ってもらえるよう、声かけている。	個々の排泄のパターンを把握して声掛けをしており、現在、4名の利用者が自立である。早めの声掛けで失禁を防いだり、リハビリパンツやパット使用から布パンツに変わった方もみえる。一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かしてトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便間隔を把握し、看護師に報告しながら、服薬や腹部のマッサージ等、不快感が続かないよう配慮している。水分やヨーグルト摂取などで自然に排泄できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定はある程度決まっているが、その日の気分や体調により、臨機応変に対応している。入浴を好まない利用者については、成功した声かけを記録し、共有している。	週2～3回、午後に入浴しており、回数や時間は利用者の希望を優先し、臨機応変に対応している。入浴拒否される場合は、成功事例を共有し誘い方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は一人でくつろげる場所であるが、共有スペースであるリビングのソファでなら安心して過ごされる利用者もある。夜間に不安が強くなる利用者に対しては、自室に行くことや臥床を勧め過ぎないようにし、職員の近くで過ごしてもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をし、確実に服薬できるよう、チェック表等も作成している。状態に合わせ、医師や薬剤師の指示を仰いでいる。より確実な服薬のために今後居宅薬剤管理指導も導入予定である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の好みや得意な事を活かし、レクリエーションや作業のお手伝い等、利用者と一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前の畑の野菜や、デッキや庭の草花と一緒に見に行ったり、デッキでの食事やおやつ、周辺を散歩する機会を作っている。家族との外出時には準備や調整をしている。	日常的に畑の野菜や庭の草花を観ながら周辺を散歩している。暖かい日にはウッドデッキで、お茶を飲んだり食事をしてくつろいでいる。利用者の希望を聞いて季節の花見、外食、日帰り旅行に出かけている。家族との外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者はおられないが、買い物や外出時には、可能な利用者には自分で支払ってもらうよう声かけしている。外出が困難な利用者の必要物品は職員が買い物代行する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをしている利用者はおられないが、希望があれば職員が取り次ぎ、援助する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山間部にあるログハウスという自然豊かな環境で、日中はほとんどの利用者が共用のリビングで過ごす。個々のペースで好きな時に自室に戻る利用者もある。家族の了解を得て、自室前には名前を掲示し、わかりやすくしている。	木のぬくもりが感じられる明るい居間兼食堂は、貼り絵や散歩の途中で摘んできた山野草を飾って季節を感じている。利用者が使い易いように高さを低く設計したオープンキッチンで、利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。生活感や季節感を採り入れた家庭的な雰囲気の中で、利用者が居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は席が決まっているが、その他の時間帯は、各自好きな場所で過ごしておられる。共用のリビングは狭い空間だが、職員の見守りができる範囲で自由に過ごしていただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類、小物等を持ち込んでいただくよう、家族にお願いしている。仏壇を置いておられた利用者もあった。	居室には、ベッド・エアコン・チェストが設置されており、テレビや使い慣れた家具、小物を持ち込まれたり、季節ごとの衣類を持ち込まれる方もみえる。ぬいぐるみ、思い出の写真などを飾ってそれぞれの好みに合わせた居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者のADLに合わせ、椅子の形態や、席等を決めている。自室や自席からトイレまでの距離等にも配慮し、調整している。		